

保護者アンケート結果

<全般考察>

全体的にはA・Bの肯定的評価の割合が大きい。設問1・2については、ほぼ100%がよいと答えている。大明小学校の教育目標や教育活動が保護者に理解されていると考えてよいだろう。また、設問7の「学校からの文書や連絡が適切である」、設問8の「地震・災害・不審者対策をしている」についても評価は高い。早め早めの情報提供をこれからも心がけていくことが重要である。一方、設問4「学校は子どもの長所や個性を理解して教育に当たっている」、設問5「学校は、子どもについての悩みや心配事を相談しやすい」、設問6「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる」についてはA評価が低く、Cの否定的評価の割合が高くなっている。設問5・設問6ではDをつけた保護者もいる。これらの評価の理由についてはきちんと分析し、対応を図っていかなくてはならないと考える。設問9「子どもは学校へ行くことを楽しみにしている」では、90%の家庭では子どもが学校へ行くことを楽しみにしていると答えているが、C・Dと答えた保護者もそれぞれ2名ずついる。教職員は、子ども達の様子について、家庭と情報をとりあひながら、子ども達の悩みや不安を軽減していくことが大切だと考える。設問10「学校生活の中で豊かな心、生き方について学んでいる」については、Aの割合が低く、C・D評価も見られる。家庭での子ども達の様子からは、学校生活を通して道徳的心情や行動が育っているとは感じられないという保護者がいることがわかる。設問11から設問14の地域の中での子ども様子についてはC・D評価の割合が高い傾向が数年間続いている。問15については、肯定的な評価が85%であるが、設問5・設問6とも関わっていると思われるが、もっと先生方と話したいと考えている保護者がいることがわかる。

<学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）>

考察1

設問5「学校は、子どもについての悩みや心配事を相談しやすい」と設問6「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる」について、両設問ともC評価の割合が高めである。自由記述の中にも5・6に関しての意見が多く寄せられている。「相談しやすさ」と「適切に対応する」という面で学校としては学年・学級担任を中心に、関係者が積極的に相談対応に当たってきたと考えているが、保護者との思いにずれが生じている。わが子が学校生活に満足しているときにはそれほど感じなかった学校との関係について、今年度は表面化してきたものとする。学校と家庭、地域がそれぞれの役割を担いながら子どもの教育に当たっているわけだが、子どもが一日の大部分を過ごす学校の果たす役割はとても大きい。学習のこと、友達関係のこと、生活習慣のことなど、学校は子どもや保護者の悩みに寄り添い、ともに考えるなどの、素早い対応が求められている。家庭訪問、個別懇談会、授業参観、学年・学級懇談会、PTA役員会、PTA総会など保護者と、意思疎通を図る場面は設定されているが、保護者は、個人的にまた日常的に担任や学校とコミュニケーションを多く取ることを望んでいることがうかがえる。

今後の改善策

今年度、4年生と3年生では、学級が落ち着かず授業が成立しにくい状況に陥った。このことに関しては臨時の学級懇談会を開いて学級の状況を説明し、今後の対応や家庭の協力について理解と協力を求めた。その後、クラスへの支援体制を始めとして、担任や管理職、S・Cも含める中で個別に保護者への対応も行ってきたが、このように大きな問題に発展する前での対策が重要だったと改めて思う。教師は日常的に学級や子どもの状態をよく観察し、気になる点については子どもの話を聞き、早いうちに必要な手立てを行うことが大切である。本校は学級づくりの手段としてアンケートから学級

や子どもの状態を把握する調査「QU」を取り入れているが、その分析や実践を通して教師自身の力量を高めていくことが大切だと考える。学級や児童の状況については、学級だよりや日常の連絡などを通して伝えることが必要である。ともに子どもの成長を支える大人として思いを話し合うことができるように心がけていく。

考察2

自由記述には、「子どものよいところをほめ、伸ばしていただいて感謝している」といった意見や「親としてできるだけ学校生活に関わる努力をしていきたい」という意見も寄せられた。学校任せでない教育や、保護者と教師との信頼関係の構築の重要性などを提言している内容であるととらえられる。子育てや子どもの教育に関するそれぞれの役割を果たしながら、子ども達のよりよい成長を支えていきたい。

<子どもの様子について（設問9～14）>

考察3

設問10～14については、子ども達に道徳性や社会性が身についているかどうかを尋ねた質問であるが、いずれの項目もC・Dの評価の割合が若干高い。12「子どもは地域の中でルールを守っている」設問14「子どもは家庭や地域の中であいさつをしている」は、社会生活をスムーズに行っていくうえでの決まりや慣習について尋ねているが、これらの内容は大人社会の中でも求められるものである。寄せられた意見の中にもあいさつができないというのは、子どもの問題でもあるが、大人の姿勢が問題であるとの意見があった。また、設問9・設問10については、設問5・設問6とも関連性があると思われるが、家庭でのわが子の様子から、学校生活での不安や不満を抱えている保護者がいることがわかる。人を傷つける言葉、先生との関係など改善しなければならない問題があると考えている。

今後の改善策

今年度も児童会によるあいさつ運動が続けられている。登校班ごとに玄関で大きな声であいさつをして教室に入っていく。元気な挨拶ができるよう取り組みも工夫されている。また、地域の中では集合場所に集まったときのあいさつや登校中に会った人へのあいさつなどにも取り組んでいるが、あまり成果としては見えていない部分もある。2学期からの取り組みとして、地域の人たちへのあいさつ、PTAとしてのあいさつ運動の取り組みなど実行に移していきたい。

子ども達の学校生活が満足できるようにすることは学校に課せられた大きな課題である。一人ひとりが認められ、自分の居場所のある学校づくりを目指していく。そのために、何より子どもの声に耳を傾けることを大切に考えたい。また、学校としての統一した学習や生活の決まりなどの作成、子ども達の道徳心を高めるような授業を仕組んでいくことも大切にしていきたい。

考察4

設問11「子どもは『早寝・早起き・朝ごはん』の基本的生活習慣が身についている」、設問13「子どもは地域の行事に積極的に参加している」についても否定的評価の割合が大きい。この2つの項目については、ともに家庭の役割と考えてよいだろう。高学年になるとスポ少などの活動も忙しくなり、なかなか地域の活動には参加できないという状況も出てきているようである。また、夜、寝るのが遅くなっている子ども達の実態もあるようだ。家庭の役割として何に重点を置くのかを考えたとき、これらのことが重要度の点で後回しにされている可能性もある。今年度の保健目標としても取り組んでいる「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは、子どもが元気に一日を過ごす源となるものである。また、地域の中で果たす子どもの役割は、発達段階によっても違ってくる。様々な地域行事に積極的に参加させることで、社会性を広げ、自分の果たすべき役割を認識させてほしいと思う。

＜その他＞

考察5

学校の教育環境についての意見として、夏の気温上昇への対策が急務であるという意見が寄せられた。「子どもへの注意喚起」「予算をあまりかけない気温上昇対策」「運動会の実施時期の検討」などである。あまりにも暑さの厳しいなかで学習する子ども達の健康を気遣った意見が多い。

今後の改善策

暑さへの対応としては、ハード面とソフト面での対策が必要だと思われる。まず、ハード面としては、校庭にある鉄製の遊具は温度を伝えやすいため、今年度、鉄棒についてはステンレス製にしていく予定である。県内でもいくつかの市では、すでに小学校にエアコンが設置されている。また、エアコン設置の方向で検討が始まっている市町村もある。本校としてもPTAと協力して市に強力に要望していく予定である。また、ソフト面では水分補給の大切さや熱中症をおこさないための方法など保健指導として伝えているところである。

運動会の実施時期については、昨年度他の行事や保育所との関係を見ながら9月末に実施ということで調整をしたばかりであり、当面はこの日程で続けていく。